

春からピカピカの一年生！ 新入学児童にランドセルを贈呈

1月24日及び2月2日に、町内4つの小学校を会場に、新入学児童へランドセルを贈る事業が昨年度に引き続き行われました。

この事業は、町内在住の児童の新入学を祝うとともに、保護者の経済的負担を軽減することを目的としたもの。今年度は、対象者93人のうち申請のあった89人

に、町内のかばん製造業「南らんどう」の山形（今野義雄社長）で製造された色とりどりのランドセルが贈られました。春から荒砥小学校に通う青木琉翔くんは、真新しいランドセルを手に「うれしい。（小学校では）勉強とサッカーをがんばりたい」とワクワクした表情を見せました。



「白鷹町で作られたランドセルを背負って元気に通学してください」と、佐藤町長から一人ひとりにランドセルが手渡された



参加者に子どもに対する普段の様子を聞く伊藤さん（左から二人目）。3月4日には第2回講座を開催予定

親子のコミュニケーションを大切に にこぼーとで子育て支援講座を開催

子育て支援センター「にこぼーと」の来館者5万人を記念した「子育て支援講座」が1月25日、同所で行われました。

この日は、フリーアナウンサーであり、マザーズティーチャーとしても活躍されている伊藤こず恵さんがナビゲーターとなり、親子のコミュニケーション

がうまくいくようにするためのコツを参加者に伝えました。伊藤さんは「母親の言葉には大きな影響力がある」とし、子どもの自己肯定感を低くしてしまう5つのNGワードを提示。参加者は「ついNGワードを使ってしまうっていた。もっと使う言葉を気にしていきたい」と話しました。

がうまくいくようにするためのコツを参加者に伝えました。伊藤さんは「母親の言葉には大きな影響力がある」とし、子どもの自己肯定感を低くしてしまう5つのNGワードを提示。参加者は「ついNGワードを使ってしまうっていた。もっと使う言葉を気にしていきたい」と話しました。

町芸術文化のさらなる発展へ 白鷹町芸術文化協会「新春のつどい」

1月21日、パレス松風を会場に白鷹町芸術文化協会（伊藤久志会長）の新春のつどいが開かれました。

この日は、同協会の会員など約110人が出席。平成29年度の事業経過報告後に、芸術文化の振興に功績のあった6人に表彰が行われました。受賞者を代表し、菅間誠一さんが「伝統ある賞をいただけたのは、協会の皆さんや英会の仲間のおかげ。さらに精進しな

い」というメッセージと捉え、今後も活動に励んでいきたい」と謝辞。続いて伊藤会長が「会員の皆さんが楽しく元気に、それぞれの活動で活躍できることを祈念したい」とあいさつしました。その後、祝吟「祝賀詞」の披露、お楽しみ抽選会を交えた交流会が行われ、互いの今後の活動や新年の抱負などを語り合いました。



（一段目）左から梅津さん、菅間さん、奥山さん（二段目）左から土方さん、佐藤さん、小形さん、

■白鷹町芸術文化協会表彰受賞者

賞	氏名	加入団体名
芸術文化賞	菅間 誠一さん	観世流英会
	佐藤 潔さん	高栄会（高玉芝居）
奨励賞	梅津しげ子さん	民踊けんこう教室
	奥山 光子さん	白鷹女声コーラスさくら
感謝状	土方 俊男さん	白鷹町少年少女合唱団
	小形 恭子さん	よさこい白鷹櫻鷹會